


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)


 No.45

● ● ● 目 次 ● ● ●

・特集：第14回日本生殖看護学会学術集会	1
・平成28年総会報告	2
・平成28年度予算	4
・第11回生殖看護実践セミナーのご案内	4
・これから行われる学会・研修会情報（2016.11～2017.2）	5
・勉強会の開催案内（関東地区）	5
・勉強会の支援と助成	6
・理事会報告	7
・学会誌への投稿のご案内	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8



特 集

 第14回日本生殖看護学会学術集会報告
 「東日本大震災から5年、被災地から発信する生殖看護」

学術集会長 高橋恵美子（東北大学病院）

第14回日本生殖看護学会学術集会を、9月11日（日）に東北大学医学部開設百周年記念ホール（星陵オーデトリウム）で開催させていただきました。今年は東北地方にも台風が上陸したり、日本各地で大雨による被害もあり天候が心配されましたが、学術集会開催時には天気も回復し、全国から270名の皆様にご参加いただきました。本学術集会を東北の地で開催するのは今回が初めてでしたが、東日本大震災が発生して丸5年の節目の年に被災地である宮城県で学術集会を開催させていただく機会をいただけたこと、遠方までお運びいただけたことに改めて感謝申し上げます。

被災地で生殖看護に携わってきた私たちの使命として、東日本大震災における経験と取り組みを風化させないこと、万が一また起こるかもしれない大災害に際して生殖看護に携わるものの教訓や備えとなりうるよう語り継ぎ、ともに考え検討する機会にしたいという思いから学術集会プログラムを企画させていただきました。

基調講演では、スズキ記念病院理事長の星和彦先生に「東日本大震災が岩手県・宮城県・福島県の生殖医療に与えた影響」と題してご講演いただきました。シンポジウムでは「東日本大震災の経験を通して考える、これからの自然災害への備え」と題して、医師・胚培養士・看護師・不妊カウンセラー それぞれの立場からご発言を頂きました。震災当時の混乱と生殖医療が置かれた現実、不妊に悩むご夫婦の思いや葛藤、医療従事者の取り組み、生殖看護に従事する私たちが自然災害への備えとして何をすべきか…参加された皆様の心に講師の先生方やご発言下さった方の言葉が響き、今後の課題や今すぐに取り組むべきことがみつかったのではないのでしょうか。

また、ランチョンセミナーでは京野アートクリニック理事長の京野廣一先生に「ここまできた凍結技術の進歩！」と題してご講演いただき（共催：株式会社北里コーポレーション）、一般演題では口演8題・ポスター

9題の合計17演題のご発表をいただき、最新の学びも得ていただけたものと思います。

事前参加登録をしていただいた皆様におかれましては、抄録集の印刷に遅れが出てしまったことから学術集会直前のお届けになってしまったり、お手元に届かない等、ご不安やご迷惑をおかけしてしまいました。この場をお借りしてお詫びいたします。

最後に、本学術集会にご協力下さいましたすべての皆様に心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

第14回日本生殖看護学会学術集会 発表を終えて

群馬パース大学 保健科学部看護学科 中島久美子

私は、今回、東北大学で開催された学術集会に参加し、口頭発表をさせていただきました。発表を通して、貴重な質問やご助言を頂くことができ、また不妊看護の実践の場に携わる他の演者の方々の発表を通して、不妊治療中のカップルはお互いの気持ちの共有を図ることが難しく、だからこそ、夫婦の関係性を支援することの重要性を改めて感じました。教育にいる立場として、今回の学術集会での学びを活かして、周産期看護と共に不妊看護の重要性についても教育していきたいです。そして、この気持ちのあせないうちに、本学会より研究助成金を受けて実施した研究成果を論文にまとめていきたいと思っています。

第14回日本生殖看護学会学術集会に参加して

熊本大学医学部附属病院 本田万里子

熊本地震から約5ヵ月、余震が未だ続く中、遠方での学会参加に悩みましたが、周囲からの勧めもあり思い切って仙台へ参りました。シンポジウムでは、関係する機関と頼る・頼られる関係の構築、情報の発信と共有が大切だと感じました。予想以上に災害弱者が多く、自立度の高い患者は後回しにせざるを得ない現状を体感し、頼るべき相手に頼ることが、被災地の患者そして私たちにとって最善の策だと認識できました。今回初めて仙台を訪れ、学会での学びも深く、大災害を乗り越えた美しい街に癒され、参加して本当に良かったです。高橋学会長をはじめ、関係者の皆様お世話になりました。ありがとうございました。

平成28年 日本生殖看護学会 総会報告

日時：平成28年9月11日（日）13：30～14：00

会場：東北大学医学部 開設百周年記念ホール

出席者：会場出席者21名、委任状147通

（本学会則18条により総会成立）

議長：高橋恵美子氏（第14回学術集会会長）

【報告事項】

1. 理事会報告（野澤理事長）

平成27年度に開催された4回の理事会および4回の臨時理事会について。

2. 総務（事務局）報告（森理事）

平成28年8月31日現在、会員数は353名。
会員管理、関連団体・機関への対応、学会ホームページの運営と管理を実施。

3. 事業報告（平成27年9月1日～平成28年8月31日）

1) 将来構想の検討（野澤理事長）

将来構想の検討事項として4つの短期目標、および短期目標4に該当する活動の一環とし

て第19回日本IVF学会学術集会に共催としてパネルディスカッションを実施予定。

2) 常任委員会

(1) 実践開発委員会（村上理事）

相談員派遣マニュアルに則った相談員の派遣、CNのネットワーク作りと継続教育の支援。社会貢献活動（熊本地震の相談メールを立ち上げ対応）、学術集会の抄録査読を実施。ホームページ上での学会員における看護上の相談終了。

(2) 教育推進委員会（坂上理事、青柳理事）

関東・関西地区の勉強会の実施支援、生殖看護実践セミナーの企画・運営。各地区勉強会の支援および助成のお知らせをHP・NLに掲載、関西地区勉強会に助成金交付。

(3) 広報委員会（實崎理事）

NL42～44号の企画・編集および発行、関

連学会・関連省庁に向けて発送、HPにNL掲載。学会案内リーフレット・学術集会案内ポスターの配布とPR活動。

(4) 編集委員会（有森理事、崎山理事）

編集委員会事務局の移転、学会誌第13巻第1号発行および編集活動。学会誌・論文投稿の電子化を検討。

(5) 将来検討委員会（上澤副理事長）

国内外の情報収集と発信、研究助成の運営・管理、研究助成の公募。会員の研究促進のための勉強会・個別相談会の開催。

3) 特別委員会

(1) 看保連対応ワーキンググループ

(森理事、清水理事)

医系関連他学会と情報交換を行いつつ、看保連看護技術検討委員会および介護報酬体系の在り方に関する検討委員会の意向調査に対し「不妊症指導管理料(仮)」（新設）の要望を提出。診療報酬対策のエビデンス作りの一環として「不妊症外来における相談の実態調査」の実施および第14回学術集会で発表。

(2) 在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ（森理事、清水理事）

不妊症患者が安全に自己注射を実施するための、看護師による自己注射指導プロトコルの作成を目的としてワーキンググループ活動を継続中。

4. 平成28年研究助成審査結果（上澤副理事長）

助成手続、公募方法、審査方法に関する内規を基に学会HPおよびNLを通じて公募後、28年申請は0件。

5. 第15回・第16回学術集会（野澤理事長）

1) 第15回学術集会

会 長：有森直子氏
 （新潟大学大学院保健学研究科
 看護学分野 教授）
 日 程：2017年9月10日（日）
 会 場：新潟日報メディアシップ（予定）

2) 第16回学術集会

会 長：菅野伸俊氏
 （ファティリティクリニック東京：
 看護師長 不妊症看護認定看護師）
 日 程：2018年9月（予定）
 会 場：東京（予定）

【審議事項】

1. 平成27年度収支決算ならびに会計監査（清水理事、村本監事、森監事）

清水理事より平成27年度の一般会計及び特別会計の収支決算(案)を報告。森監事より平成27年度収支決算に関して、監査を執行した結果、適切であったと報告。

*報告事項に関し会場の拍手により承認。

2. 平成28年度事業計画案（野澤理事長）

1) 学会の将来構想の検討：将来構想をふまえた目標4点を提示。

短期目標1：生殖看護を定義し、概念化する。

短期目標2：生殖看護のコンピテンシーを明確にするための取り組み。

短期目標3：学会活動を見直し、会員の満足が高まるような活動充実を図る。

短期目標4：関連職種・関連学会との具体的な連携を図るための取り組み。

2) 常任委員会

(1) 総務（事務局）

個人情報保護法に基づいた会員管理とHPの運営・管理の実施。
 関連団体・機関への会議出席や学会としての意見提出の実施と拡大。

(2) 実践開発委員会

相談員派遣業務、CNのネットワーク作りと継続教育の支援、社会貢献活動。
 CNが本学会学術集会長に就任した際のバックアップ、学術集会の抄録の査読協力。

(3) 教育推進委員会

セミナーの開催および勉強会の支援、第11回生殖看護実践セミナーの開催。
 第12回生殖看護実践セミナーの企画・準備、勉強会の開催支援、NL報告。

(4) 広報委員会

ニュースレターの企画・編集および発行、関連学会等でのPR活動。

(5) 編集委員会

日本生殖看護学会誌の発行およびタイムスケジュール。

(6) 将来検討委員会

研究助成関連の運営・管理及び活用方法の検討、国内外の情報収集と発信。
 ケアの質の向上に向けた将来検討委員会の取り組み。

3) 特別委員会

(1) 看保連ワーキンググループ

看保連の総会、臨時総会、委員会等に出席、診療報酬改定に向けたエビデンス構築の推進。
 「不妊症外来における相談の実態調査」の論文投稿。

(2) 在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ

不妊症患者に対する看護師による自己注射指導プロトコル作成に関する活動継続。
 *平成28年度の事業計画案は、会場の拍手により承認。

3. 平成28年度収支予算案の承認（清水理事）

平成28年度の収支予算案が提示され、会場の挙手により承認。

4. 第19回日本IVF学会の案内（野澤理事長）

10月1日、2日に神戸で開催される第19回日本IVF学会学術集会に共催としてパネルディスカッション実施予定の報告および参加案内。

5. 第15回学術集会の告知（有森直子氏 次年度学術集会長）

新潟大学大学院の有森直子氏より第15回学術集会の日程と場所が報告され、会場の拍手により承認。

平成28年度 収支予算書

(平成28年9月1日から平成29年8月31日まで)

日本生殖看護学会

一般会計

収入の部

(単位：円)

大科目	小科目	予算額	備考
会費収入	年会費	2,800,000	350名×8000円
繰越金	前年度繰越金	3,555,719	
収入合計	収入合計 (A)	6,355,719	

支出の部

科目	小科目	予算額	備考
会議費		【850,000】	
	理事会会議費	800,000	
	総会費	50,000	往復はがき代
事業費		【1,420,000】	
	広報委員会	350,000	ニューズレター発行
	教育推進委員会	130,000	セミナー開催
	実践開発委員会	70,000	相談委員の派遣
	編集委員会	420,000	学会誌発行
	将来検討委員会	250,000	研究支援
	学術集会補助費	200,000	第15回学術集会補助費
事務費		【500,000】	
	人件費	350,000	アルバイト (PC入力・HP管理)
	通信費	60,000	
	消耗品費	90,000	
団体登録料		【160,000】	
	日本看護系学会協議会	80,000	
	看護系学会等社会保険連合	70,000	
	日本カウンセリング学会	10,000	
活動費		【300,000】	
	ワーキンググループ活動	300,000	
	予備費等	3,125,719	
	支出合計 (B)	6,355,719	

特別会計：研究助成金積立金

(単位円)

小科目	予算額	備考
平成28年度積立金	200,000	一般会計より
平成28年度助成金	0	助成対象者なし
前年度までの積立金	650,229	
合計 (A)	850,229	

第11回生殖看護実践セミナー

【テーマ】「生殖医療における多様なモラル・ジレンマ」

【日時】平成28年10月29日(土) 13:30~16:00

【場所】順天堂大学浦安キャンパス (千葉県浦安市高洲2-5-1)

【目的】生殖医療における様々なモラル・ジレンマとその背景にある生殖医療のメリット・デメリットについて理解します。ディスカッションでは、身近なモラル・ジレンマに関して自己の価値観にも目を向け、その対応と課題について検討したいと考えています。

【内容】1. 講演「生殖医療におけるモラル・ジレンマ～生命倫理の立場から考える～」

講師：鶴澤 和彦先生 (北里大学一般教育部講師) *講師が変更になりました

2. グループディスカッション

【参加費】会員 無料 非会員 1,000円

【お申込み】参加ご希望の方は、お名前、ご所属、連絡先、会員番号を明記の上、10月20日(木)までにメール又はFAXでお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしております。

【お申込み・お問い合わせ先】教育推進委員会 担当：青柳 優子

E-mail: jsfn.edu@gmail.com FAX: 047-350-0654

これから行われる学術集会・研修会情報 (2016年11月～2017年2月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会HP / 運営事務局
11月	3日・4日	日本生殖医学会学術講演会 (第61回) 「叡智の伝承」	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)	http://www.jsrm.or.jp/jsrm61/ 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビルディング402 株MA コンベンションコンサルティング TEL : 03-5275-1191 / FAX : 03-5275-1192 E-mail : info@macc.jp
	5日・6日	日本女性医学学会学術集会 (第31回) 「女性医学の多様性-他領域との連携」	ウェスティン 都ホテル京都 (京都府京都市)	http://jmwh31.umin.jp/index.html 株MA コンベンションコンサルティング 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビル402 TEL : 03-5275-1191 (代表) / FAX : 03-5275-1192 E-mail : info@macc.jp
	18日・19日	日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (第32回) 「妊娠をライフステージとしてとらえる～予防から治療までの進歩～」	岡山県医師会館 (岡山県岡山市)	http://www.dm-net.co.jp/jsdp/annual-meeting/32.php 株式会社コンベンション・ラボ 〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本6-4-12吉川ビル 4F TEL : 042-707-7275 / FAX : 042-707-7276
12月	10日・11日	日本看護科学学会学術集会 (第36回) 「国民の幸せをもたらす制度設計と看護研究」	東京国際フォーラム (東京都千代田区)	http://www.procomu.jp/jans2016/index.html 株式会社プロコムインターナショナル 〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFT ビル東館 9階 TEL : 03-5520-8821 / FAX : 03-5520-8820 E-mail : jans36@procomu.jp URL : http://www.procom-i.co.jp/
	10日	2016年度 聖路加国際大学 がんプロフェッショナル養成基盤 推進プラン事業 「Oncofertility -がん患者の生殖 看護を考える-」	聖路加国際病院 (東京都中央区)	http://university.luke.ac.jp/news/2016/jgl9rh0000001rei-att/jgl9rh0000001rft.pdf 聖路加国際大学 〒104-0045 東京都中央区築地3-8-5 E-mail : gp-kokusai@slcn.ac.jp
	11日	日本生殖看護学会 2016年度関東地区勉強会 「不育症の診断、治療の現状と課題 ～不育症を理解し看護の役割を考える～」		http://jsin.umin.jp/study/jsinbenkyo2016.12.11.pdf
	11日	Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016地域完結医療連携モデルの全国展開および がん・生殖医療における心理支援体制の構築	横浜情報文化センター6階 情文ホール	http://www.j-sfp.org/img/link/flyer20161211.pdf
2月	7日	日本がん生殖学会 がんと生殖に関するシンポジウム2016 ～男性がんと生殖機能の温存を考える～	都市センターホテル (3F コスモスホール)	http://www.j-sfp.org/symposium/index.html
	19日	日本生殖心理学会学術集会 (第14回) 「不妊患者はかわったか」	ウインクあいち (愛知県名古屋市中)	http://www.jsrp.org/5


関東地区勉強会

【日 時】平成28年12月11日(日) 13:30～16:00 (受付13:00～)

【会 場】聖路加国際病院 旧館5階 研修室A

【テーマ】「不育症の診断、治療の現状と課題」～不育症を理解し、看護の役割を考える～

【目 的】近年、着床前診断の対象に不育症患者が含まれるようになるなど、不育症患者への治療に拡がりが見られています。その中で不育症を心配する患者や不育症が疑われる患者に対し、医療者は正しい情報提供を行う必要があります。改めて不育症に関する正しい知識を身につけ、明日からの看護及び医療の実践につなげていければと考えております。また、ディスカッションを通して皆さんの生殖医療の豊かな経験や患者への対応に関する意見を共有できる機会を持ちたいと思っております。

【内 容】1. 講演 講師：杉ウイメンズクリニック 杉 俊隆先生
2. グループディスカッション

【参加対象者】不育症に関心のある看護師及び医療従事者

【参加費】学会員1,000円 非学会員1,500円 定員80名 (先着)

【教 材】「不育症学級」杉 俊隆 著 金原出版 2,160円 (税込)

【連絡先】担当：橋崎里美 E-mail : satomi.narazaki@gmail.com

参加ご希望の方は、氏名・所属施設・職種・参加区分(学会員/非学会員)・教材購入の有無・連絡先(メールアドレス)を記載し、E-mailにてお申込みください。同施設で複数名参加される場合、所属施設・参加者全員の氏名・職種・参加区分(学会員/非学会員)・教材購入の有無・代表者の方の連絡先(メールアドレス)を記載し代表者の方がお申し込みください。

なお、申込期限は平成28年11月20日(日)となっております。多くの方のご参加をお待ちしております。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡下さい。また、日本生殖看護学会ホームページには、勉強会の企画に関する資料が掲載されています。日本生殖看護学会のニュースレターやホームページにも広報を掲載することが出来ます。資料を参考になさってください。

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等の運営費を助成します。助成金は企画1件につき1万円、当該年度の助成は3件までです。助成に関してご意見等がありましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

【勉強会に関する連絡先】 教育推進委員会 担当理事：千葉大学大学院看護学研究科 坂上 明子
E-mail：akiko-sakajo@faculty.chiba-u.ac.jp TEL&FAX：043-226-2411

日本生殖看護学勉強会等助成要項

【助成の趣旨】

日本生殖看護学会員による生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等運営費を助成し、日本生殖看護学会員サービスに寄与し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

会員個人または共同で開催する勉強会等企画者を対象とする。

【応募資格】

1. 勉強会企画代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同で企画する場合は、代表者以外の共同企画者も勉強会開催時に本学会会員である者。
3. 勉強会予算案を日本生殖看護学会員と非会員の参加費に格差をつけ、作成していること。

【助成金】

助成金は勉強会の企画1件につき1万円を限度とし、当該年度の助成は3件までとする。

【助成期間】

平成28年9月1日～平成29年8月31日までの約1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の勉強会助成申請書に必要事項を記載し、1部を学会教育推進委員会宛にメールで申請する。
メールの件名は「日本生殖看護学会勉強会助成申請」とする。
2. 応募受付期間：平成28年9月1日～平成29年6月30日、ただし、勉強会開催の2か月前までに応募する。
3. 申込先：日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事：坂上明子
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科 リプロダクティブヘルス看護学領域
TEL&FAX：043-226-2411 E-mail：akiko-sakajo@faculty.chiba-u.jp

【選考及び助成の決定】

教育推進委員会において選考の上、応募から1か月以内に、応募者にメールで通知する。

【助成金の使途】

勉強会の企画・運営に必要な講師料、物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【勉強会の成果の報告】

1. 助成を受けた者は、勉強会終了後、参加人数および成果、収支決算を教育推進委員会にメールで報告する。
2. 勉強会の内容および成果は、ニュースレターに掲載する。

理事会報告

第3回臨時(書面)理事会

日時：2016(平成28)年5月10日(火)

場所：書面による。

【審議事項】

1. 入会・退会審査：5名の入会および1名の退会を承認。

第4回臨時(書面)理事会

日時：2016(平成28)年6月30日(木)

場所：書面による。

【審議事項】

1. 第19回日本IVF学会 パネルディスカッションの企画を承認。
2. 入会・退会審査：4名の入会および2名の退会を承認。

第3回理事会

日時：2016(平成28)年8月8日(月)

14:00~16:15

場所：聖路加国際大学本館5階506室

出席者：野澤、上澤、森明、村上、青柳、實崎、有森、崎山、清水、坂上、村本、森恵、高橋(学術集会長)

【報告事項】

1. 第14回日本生殖看護学会学術集会の準備進捗状況。
2. 理事長：第19回日本IVF学会学術集会パネルディスカッションの企画と準備進捗状況および科研「生殖看護コンピテンシーモデル」の進捗状況。
3. 広報委員会：広報委員会活動計画およびNL発行計画案。
4. 教育推進委員会：第11回生殖看護実践セミナーの申込状況。
5. 実践開発委員会：2016年Fine祭り相談員派遣、熊本地震の相談メールの立ち上げ。
6. 編集委員会：学会誌第13巻発刊、投稿論文の査読状況、編集委員会事務局の移転。
7. 将来検討委員会：第2回将来検討委員会勉強会開催、国内外の学会・勉強会に関する情報発信。
8. 総務：総務活動状況。
9. 会計：平成27年度収支決算。
10. 監事：今後、収支決算の監査予定。
11. 看保連対応WG：平成28年度 看保連第1回看護技術検討委員会。

12. 健やか親子21推進協議会WG：平成28年度全国大会の開催予定。

【審議事項】

1. 第16回学術集会長にファティリティクリニック東京の菅野伸俊氏を承認。
2. 入会・退会審査：4名の入会、5名の退会を承認。
3. 編集委員会：平成28年度予算案を検討。
4. 将来検討委員会：平成27年度研究助成対象者の期間延長依頼に対し1年間延長を承認。
5. 会計：平成28年度予算案を承認。
6. その他：掲載論文の転載許諾申請依頼に対する転載許諾および第15回学術集会の開催日変更を承認。

第4回理事会

日時：2016(平成28)年9月10日(土)

18:00~19:05

場所：東北大学医学部開設百周年記念ホール(星稜オーデトリウム) 小会議室1

出席者：野澤、上澤、森明、村上、青柳、實崎、有森、崎山、清水、村本、森恵、高橋(学術集会長)

【報告事項】

1. 第14回日本生殖看護学会学術集会の準備状況。
2. 理事長：第19回日本IVF学会学術集会パネルディスカッションの企画と準備進捗状況。
3. 総務：理事・監事名簿の更新。
4. 編集委員会：学会誌第13巻第1号の修正、第14巻第1号に向けた査読状況。
5. 会計：平成27年度収支決算の会計監査および平成28年度予算案の一部変更。

【審議事項】

1. 入会・退会審査：1名の入会、20名(19名の強制退会を含む)の退会を承認。
2. 平成28年総会要綱(案)を加筆修正の後、承認。
3. 平成28年総会進行予定：総会の運営および進行について承認。
4. 第11回生殖看護実践セミナーの講師の変更(鶴澤和彦先生)を承認。



研究論文を学会誌に投稿してみませんか？

～研究発表で終わらせないために～

皆様が行った貴重な研究を論文として形にすることは、生殖看護に携わる看護職者に知識を与え、広く活用され、看護の質の向上に貢献します。そして、研究に協力くださった多くの方々に対して、本当の意味で感謝の気持ちを示すことでもあります。

査読が厳しいのでは…と思われるかもしれませんが、それは査読が研究指導とは異なる側面を持つためです。査読者の助言を受けることは質の高い論文を作成するために不可欠な過程であり、投稿者にとって、論文内容を多角的に深めることのできるチャンスです。

皆様の看護実践能力を向上させるためにも、論文投稿にチャレンジしてみませんか？

第14巻第1号学会誌の投稿締め切りは、**2016年11月25日(金)**です。

*投稿の詳細は、学会誌やHPに掲載する「論文投稿規定」をご確認ください。

事務局からのお知らせ

1. 第15回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。
2. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFAXで、気軽にご連絡ください。
3. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は事業運用上、できるだけお早めをお願い申し上げます。
4. 異動・転居された方は必ず事務局までお知らせください。宛先不明ですと、ニュースレター、学会誌をお届けすることができませんので、ご協力お願い申し上げます。
5. 会員数353名（平成28年8月31日現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加国際大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail : jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号 : 00170-2-333414

加入者名 : 日本生殖看護学会

◆編集後記

今年の学術集会は、日本で初めて体外受精による児が誕生した東北大学で開催されました。それから30数年を経た現在では年間5万人近くの子が体外受精により誕生しており、生殖医療は発展の一途をたどっています。生殖看護も皆さまとともに、今後ますますの発展を目指していくことを心に誓う機会となりました。

学術集会長を始めとする運営スタッフの皆さま、誠にお疲れさまでございました。

広報委員会 實崎美奈

●次号の原稿締切日

ニュースレター第46号の原稿締切日は、2017年1月23日(月)を予定しています。